



会場を包んだ炎の熱さと祭りの熱気

5月4日、第25回さきたま火祭りがさきたま古墳公園で開催されました。

日が落ちるころ、たいまつ行列に導かれてニニギの命とコノハナサクヤ姫が登場。産屋に火が放たれると、火柱が天高く立ち上って辺りはオレンジ色一色に染まり、炎の熱さとともに観客の熱気が会場を包み込みました。

藍染体験工房「牧禎舎」オープン

江戸時代から大正時代にかけて盛んだった行田の藍染めの伝統を気軽に楽しむことができる体験型観光スポット「牧禎舎」が、5月9日にオープンしました。

オープン・セレモニーとして行なわれた工藤市長らによる藍染体験始めに続き、一般の来館者も「藍の華」といわれる泡が立つ藍甕がめの中に手を突っ込み、藍染めを体験。二つと同じものは作れない、世界でたった一つの作品に体験者は皆、満足そうでした。



「元気に育って」とホタルの幼虫を放流

5月16日、古代蓮の里ホタルの川でホタルの幼虫の放流が行われました。

これは、古代蓮の里ホタルの会会員が育てたホタルの幼虫を放流し、古代蓮の里をホタルが定着し繁殖できる公園にしようと、平成17年から毎年行っているものです。当日は、市内の幼稚園や保育園に通う子供たちやその保護者らが「元気に育って」と声をかけたりしながら、約10,000匹もの幼虫を放流しました。

なお、6月18日から20日まで同会主催によるホタル観賞会が行われます。(関連記事6ページ)

レンゲ畑で大はしゃぎ

4月30日、長野地区の畑で東小学校3年生によるレンゲまつりが行われました。

同校3年生の児童81人が、柿沼重兵衛さん(同地区在住)の所有する畑に咲くレンゲを使って、腕輪や花かんむりなどを作ったり、友達同士で追いかけてっこをしたりと大はしゃぎ。晴れ渡った青空の下、レンゲの花に負けないほど、子供たちの笑顔も無数に咲いていました。

